

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.183

発行: 令和2年4月1日

講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の20日から)

「神楽岡公園・春の自然観察会」～春の野草を探そう～

とき 令和2年5月6日(水)祝 *小学生以上*

午後1:30～3:30 定員20名

講師 旭川外来植物研究会

代表 塩田 惇さん



「ミニカトリアを木片で育てる講習会」

とき 令和2年5月24日(日)

500円

午後1:30～3:30 定員10名

講師 緑のセンター相談員



「花、小果樹、野菜の病害虫と防除講習会」

とき 令和2年5月16日(土)

午後1:30～3:30 定員20名

講師 緑のセンター相談員



「立派なコショウランをもらった時の講習会Ⅰ」

とき 令和2年5月31日(日)

午後1:30～3:30 定員5名

講師 緑のセンター相談員



令和2年度 連続講習会 13:30～15:30

春のタイムトキノワ

夏のサギソウを楽しむ講座 全3回



4/11(土)、8/1(土)

2021/2/6(土)

1,000円

これから始める家庭菜園の

初級講座 全3回



4/25(土)、6/6(土)、7/18(土)

1,000円

四季成り風イチゴ栽培講座



全2回 5/10(日)、8/30(日)

500円

誰でも楽しめる菊ガーデン講座



全2回 5/23(土)、6/13(土)

500円

展示会のご案内

「野の花写真展」



4月4日(土)～4月26日(日)

「作品提供」 神田 巨雄氏

「山野草展」



5月22日(金)～5月24日(日)

「作品展示」

北海道山草趣味の会

【休館日のお知らせ】

4月～10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月～3月は毎週月曜日が休館日です。(")

「サツキ展」



5月30日(土)～5月31日(日)

「作品展示」

旭川サツキ会

<園芸の基礎知識> 植物の葉っぱの働き

～ 葉っぱの就眠運動しゅうみんうんどう ～

■オジギソウの昼と夜の姿

オジギソウの葉っぱは昼間、何かが触れなければ開いており、手で触れると閉じます。この葉っぱは夜になると、何も触れなくても、葉っぱは閉じ、眠るように垂れ下がります。これは夜に葉っぱから水が出ていくのを防いでいるといわれています。朝になると、またきちんと葉っぱを開き、葉柄は立ち上がってきます。オジギソウの葉っぱは、この運動を、毎日繰り返すのです。この植物は、時を刻むための生物時計をもっているのです。



■オジギソウの仲間たち

夜に葉っぱを閉じるのは、オジギソウだけではありません。夜の真っ暗な中で、カタバミやクローバーの葉っぱ姿を見たことがあるでしょうか。昼間に太陽の光を受けていた葉っぱが、折りたたまれるように閉じて垂れ下がっています。朝になると、またきちんと葉っぱは開きます。カタバミやクローバーの葉っぱも「朝に開き、夜に閉じる」いう運動を、毎日繰り返すのです。これと同じような葉っぱの運動は、ネムノキ、インゲンマメなどでも知られています。

■眠らないオジギソウ

オジギソウを、タネのときから1日24時間蛍光灯をつけっぱなしにして連続照明の下で育てます。1度も夜の暗さを与えないのです。この場合、葉っぱは「朝に開いて立ち上がり、夜に閉じて垂れ下がる」運動をいっさいしません。オジギソウは、葉っぱをいっさい閉じたり垂れ下がらせたりせず、つまり眠ることなく開いたままで、成長を続け、花を咲かせます。

(参考資料:ソフトバンククリエイティブ「葉っぱのふしぎ」ほか)

「ハーブのブーケづくり」

「あっ！先にいい花をとられた。残念！」「ハーブ利用法のお話が良かったです。もっとハーブのパワーについてお話が聞きたかった。」「かわいいブーケができました！家族に自慢できます。」

令和元年6月19日(水)にハーブコーディネーター建部久美子さんによる講座を実施しました。

まずイタリアンパセリについてお話がありました。糖質の代謝を助け、エネルギーを作り出し疲労回復に役立つ**ビタミンB1**や細胞の新陳代謝を促進し、皮膚や粘膜の機能維持や成長に役立つ**ビタミンB**を豊富に含みます。また、脳神経を正常に働かせるのに役立つ**ナイアシン**や動脈硬化を予防してストレスを和らげる働きのある**パントセン酸**、そして貧血を予防し、細胞の生まれ変わりや、新しい赤血球を作り出すために欠かせないビタミンである**葉酸**を含みます。その他**ビタミンC**や**E**、骨を構成するのに必要な**カルシウム**や**リン**、**マグネシウム**を、さらに**ピネン**や**アピオール**などの独特な香り成分は抗菌作用があり、口臭や食中毒を防ぎ、胃の働きを活発にします。**β-カロテン**を含むので強力な抗酸化作用が期待できます。その他、ハーブを使った食事、ハーブティーなど幅広い利用法を教えてくださいました。

そしてお楽しみのブーケづくりでは、先生が持参した多くのハーブを選んでブーケを作ってお持ち帰られましたが、たいへん楽しい時間を過ごすことができたことと好評をいただきました。



植物の病害虫

その54「キュウリの斑点細菌病」



葉の被害症状



果実の被害症状



葉を光に透かすと病斑の周りが
ぼんやり黄色になって見える

1 寄生しやすい植物

キュウリの他にメロン、カボチャ、スイカ、トマト、ミニトマト、ピーマン、ズッキーニ、レタス、ユウガオ、大豆、花卉などを侵します。

2 被害

葉、茎及び果実に発生します。種子伝染したときは、子葉の縁に沿って初めやや水浸状の斑点ができ、後に淡褐色で多少くぼんだ円形の病斑となります。本葉では、水浸状の暗褐色の小斑点を生じます。この斑点は次第に広がって径3mmほどの葉脈に囲まれた多角形の病斑となります。べと病と病斑は類似していますが、多湿条件下でも葉の裏に暗灰色のすす状のカビができないので区別できます。病斑部は次第に色が抜けて白っぽくなり、薄く穴が開きやすくなります。果実では先端に近い部分に発生が多く、はじめ油浸状の小斑点を生じ、後に病斑部を中心に亀裂を生じて白色の「ヤニ」を分泌します。葉柄、茎に発生すると暗緑色水浸状の病斑を生じ、後に白色に変わって「ヤニ」を出します。病斑部から先の茎葉が萎凋・枯死することもあります。

3 生態

病原菌は細菌で、発育適温は25～27℃、最低2～3℃、最高 36℃。低温でも繁殖します。第1次伝染原は保菌種子や罹病植物の残渣物です。病原菌は種子に付着して1年以上生存しています。キュウリ体内へは、気孔、水孔、傷口などから侵入します。農作業時に病原菌が農機具や管理者の衣服に付着して2次伝染します。温度は25℃付近で最も発病しやすいですが、ハウス栽培ではそれよりいくぶん低温で密閉した湿度の高いハウスに多発します。天井の水滴が葉上に落下して細菌を飛散させることもあります。

4 防除法

- 種子消毒をします。または無病種子を使用します。発病苗は本圃に定植してはいけません。
- 古い支柱、ハウス資材は作付け前に十分水洗あるいは消毒します。
- 被害を受けた茎葉などは圃場外に持ち出して処分します。窒素肥料を過用してはいけません。
- 予防には炭酸水素ナトリウム・銅剤(商品名ジーファイン水和剤)を、発病初期にはカスガマイシン・銅剤(商品名カスミンボルドー水和剤)を茎葉散布します。

春先の外仕事の準備

4月は雪どけの季節です。「みどりの日」や野菜苗の確保などに心が逸ります。しかし、まだまだ戸外は遅霜があったり強い春風が吹いたり、安定しない気候が続きます。本格的な外仕事の始動は5月になってからです。

……準備するポイントと作業のアドバイス……

- ①パンジー、ビオラなどは株が旺盛に広がり、たくさん花を咲かせる季節になります。長く楽しめるように、こまめに花がらを摘み取りましょう。花がらは先端だけ摘み取るのではなく、花茎にそって生え際で摘み取りします。
- ②野菜の苗が量販店に数多く出回るようになります。「早く買わないと良い苗がなくなる。」気持ちはわかりますが、露地に定植するのは5月下旬以降です。まだ早すぎます。この間に作付けする土壌検査を行い、不足する養分や堆肥などをいれて何度か耕しておくことによって後々の成長に格段の差がつきます。
- ③チューリップなどの秋植え球根は、花が終わったら花がらを摘み取って、お礼肥を施します。花がらと一緒に茎葉を摘んでしまうと、光合成ができなくなります。茎葉が枯れるまで残しておき球根を太らせます。ダリアやグラジオラスなどの春植え球根は、遅霜の影響を受けない5月中旬が植えつけ適期です。
- ④冬期間、室内に取り込んでいた鉢花や観葉植物などは、日中の暖かい時間を見計って外に出したくなりますが、5月中旬以降から少しずつ日差しと気温に慣らしながら、徐々に戸外へと移行していきます。
- ⑤4月下旬からはシンビジウムなど洋ランの植え替え、株分けの適期になります。サボテンや多肉植物も植え替えや挿し芽の適期に入ります。多肉植物は、挿し芽を一か月も砂の上に置くだけで発根します。
- ⑥常緑樹なども植替え、植えつけの適期です。春咲きの花木は花後にお礼肥を根元に施し、剪定をしておきます。剪定は採光と通風を考えて、からみあった枝や樹形を乱している枝などを刈り込んでおきます。
- ⑦芝生は種まき適期です。傷んだ場所の張替えや追い蒔きも可能です。成長する時期なので芝用肥料を施しましょう。芝生の雑草は厄介なので雑草の葉の部分にだけ筆で除草剤を塗るのも一つの方法です。



(手前:白:キクザキイゲ、奥:ピンク: カクリ)

展示室の植物 (89)

コーヒーノキ

学名: *Coffea arabica* アカネ科 コーヒーノキ属

私たちが口にするコーヒーの原料は、コーヒーの木に生る果実の種子です。花の色は白く、果実は緑色から赤くなり、熟すと赤紫色になります。これが「チェリービーンズ」と呼ばれ、果肉は食べると甘みがあります。その中に半球形のタネ(コーヒー豆)が2粒入っています。これを焙煎して飲んでいるわけです。主な産地はラテンアメリカ、アフリカ、アジアで、赤道を挟むベルト地帯です。品種はアラビカ種とロブスタ種が代表的ですが、緑のセンターにあるアラビカ種が世界のコーヒー生産量の6割を占め、各産地の地形や気候などの影響を受けて、香りや味、風味が違うといわれています。

